

令和7年度第4回長崎市文化振興審議会 議事録

日 時：令和8年3月24日（火） 15：30～17：00

会 場：市役所9階 中会議室

次 第：

- 1 新たな文化施設の整備等について

次第1 新たな文化施設の整備等について

<新たな文化施設の整備等について資料により事務局から説明>

【会長】

2ページを改めて眺めてみると、ようやくここまできた感じはする。この審議会では、新たな文化施設基本構想が令和元年、基本計画がコロナもあり会議を開けなかったことはあったが令和5年3月に決められず4月にずれ込んでしまった。その4月の真ん中、新しい鈴木市長市政がスタートし、いろいろ見直しがあり3年。ようやく今日は計画を検討いただき17%削減のA案B案と具体的に示された。時期も2年と2~3年で5年かかるとなるともうちょっと先になりそうとのご説明だったと思う。今後推進室ができ、文化振興課とは連携しながら進めていくと示されている。文化振興審議会は普段文化振興課とのお話で、直接推進室との接点はないということか。場合によっては推進室の方もいらっしゃり、こんなふうな状況とご説明いただくことが今後出てくるか。その連携をどんなふうにするか具体的にイメージがもしあれば説明いただけるか。

【事務局(企画政策部)】

今、官民連携推進室で市庁舎跡地の部分について文化振興課とともにしているが、専門の市庁舎跡地整備室を4月から立ち上げ、そちらが市庁舎跡地全体の整備を行っていく。PFIの可能性調査をしているが、文化施設本体については文化振興課でしていくが、企画政策部の新たな組織で全体を調整していくことになる。文化振興審議会の説明についても市庁舎跡地整備室も同席する格好で、適宜、話題もいろいろあるかと思うが、この整備に関するものについては一緒に説明をしていきたいと考えている。

【会長】

文化施設本体はそうだろうが、これがなかなか進まなかった要因の1つとして、周りをどうやってにぎわいを作り活用していくかが理由だった気がするので、とてもお互いに影響があると思うので、ぜひ内容は一緒にお話をさせていただくことがあったら良いと思う。

【委員】

A案B案が示され、どちらかに最終的に決まるだろうが、我々文化団体からすると明らかにA案の方が良い。諸室の形状が整形で利用しやすい、楽屋と舞台が同じ階にある、これは必須だと思う。リハーサル室、練習室の管理が行いやすいメリットは、やはり我々にとっては非常に魅力的なので、できるだけA案になって欲しいと思うが、そういう我々の意見や要望が反映できるのか、どういう形で案がどちらに決まるのかをどちらも正式でないとお聞きしたうえで教えていただきたい。

【事務局(市民生活部)】

皆さんの意見をどういうふうに反映していくかだが、今言われたように舞台と楽屋が同じ面にあったほうが良いのは我々も当然同じように考えている。実際に設計の業務に入る時にいろいろな条件を付すが、その条件の中に皆さんからいただいた意見、これまで積み重ねてきた議論をしっかり反映したものを設計に生かしていくことになる。ただ、A案かB案かという選択肢では全くなく、今言ったように同じ階にあるが、形や配置が全然違うさらにもっと良いものが出てくる可能性もあるし、向きがAの方が良いのは、皆さん同じような意見かもしれないが、6ページにあるように市も、A案とB案を比べてみたら、A案の方が良いとコメントに書いている。皆さんの意見をこれからもしっかりと聴取しながら、それを反映した上で、設計に進んでいきたいと考えている。

【会長】

今おっしゃったようにA案というところは市としても使う側もいろいろあると思うが、なぜA案が良いのか、A案でなくてはならないか、B案のどこがまずいのか、A案がどうなったら使いにくいかを明らかにしておかないと、同じフロアでないと話にならないようなことが実は使う側としても大事なことになるので、そこは再度押さえながらいけたらと思っている。

【委員】

変更のモデルプランでA案B案とあるが、なぜA案B案になったのかはすごく不思議で、予算の都合でとか、実際設計してみたらとか、配置を変えてみたとか、どうしてこうなったのかを教えていただきたい。

【事務局(市民生活部)】

現行のモデルプランから変更修正をかけA案B案をお示しした一番の背景は、昨年皆様にも議論をいただいたように、今の物価高騰、それから民間収益施設を活用していくという大きな方向性が出たので、それに伴って2割程度の延床面積を圧縮したいというところで、例えば奈落(大迫)をなくすとか、機械室を少し狭くできないかという議論をさせていただいた。皆様からたくさんのご意見をいただいたものを見える化したのがA案B案となり、結果的に2割を目指していたが17%程度の削減になった。

【委員】

当初の基本計画で縦型、横型、斜め型とあった。今示されたのが縦型、斜め型だと思う。まだモデルプランで確定ではないが、削減率17%で、民間の施設と合体させるために削減し、地下階の一部が余剰地内に含まれるのがA案としては問題で工夫していかないといけないと思う。B案は同じ土地を活用するのにこの建て方はとても無駄だと思う。もともと斜めはありえないと思っていたので、斜めでこの建て方は活用しづらいとしか思えない。私と

してはやはり A 案を民間施設の配置にどれぐらい制約が生じるのかももちろん考えていた
だいたうえで、また、文化施設の上にはもう重ねないと聞いていたので、横の余剰地に何か
のハコモノを作ることになろうかと思うので、十分検討していただきたい。いずれにしても
6 年間はまだまだというところがあるので、そこを考えると当初からかなり年度が経ってい
る。私ども文化団体としては、実はもう 1 つ本当に困っているのが、今年 4 月から文化ホ
ールの上の音楽室は冷房込みの価格で設定されるということで、とても憤慨している。私ど
もは音だけ抑えれば良いから、例えば受益者負担なら受益者負担で冷房を使わない人は使わ
ない金額、使う人は使う金額ときちんと分けて良いのではないか。なぜそれを一律にするの
かよくわからない。

【会長】

利用料は確かに値上がりしていろいろなところから困ったとのご意見もあり、この審議会でも
練習場をどうするかも大きな問題と考えているが、まずはホールのところで、斜めはあり
えないとか、他に。

【委員】

建設ど素人でわからないが、トラックの入り口が A 案と B 案で違う理由があるか。B 案の
ように入って出ちゃだめかと思ったが、A 案の場合はこっちから入らないといけない理由が
あるか。

【事務局(市民生活部)】

入口が右側と左側と分かれているが、A 案の荷物をおろし搬入していく動線が右側の事務室
側に寄っているところにその理由がある。B 案は左側に寄った入口から入り、少し奥の左下
から搬入するイメージになるかと思うが、A 案は図の中央辺りから搬入することになるの
で、搬入口の位置によって入口も変わる状況。

【委員】

我々は舞台のことしか考えないので道具の搬入だけ考えて舞台の方でだめかと思ったが、確
かに事務室で荷物を下ろす。了解した。

【事務局(市民生活部)】

10 ページの真ん中上のモデルプラン A 案が今委員がおっしゃったところ。少し赤の線があ
りトラック回転スペースと書いている。この真下に 11 トントラック、4 トントラックの搬
入口が A 案だとここにあるため、ここまで入れて、どうしてもここで回転するスペースが
ないので、広い方の左上の搬出口から出ていく形を取っている。

【委員】

中練習室が無くなり残念に思う。話が立ち上がってから物価の高騰などもあり建設費が高騰したから 20%ぐらいの削減をということだったと思うが、まだこの後も時間がかかるということで、世界情勢を見ても物価が高騰する市場になっている中で、今後また削減をしなきゃいけない可能性が出てくるのか。また、トラック転回スペースの出口の近くは関係者が止められる駐車スペースになるか。多分そのエリアは空いていてコンクリの打ちっぱなしになると思うが、ブリックホールだと関係者が止められるがそうなるのか。

【事務局(市民生活部)】

関係者や来場者の駐車場はモデルプランでは想定をしていないので、具体的にお答えできる段階にはない。ただ、桜町駐車場も附置義務駐車場の候補として検討している状況なので、同時並行して改めてご報告させていただくことになる。1 点目のお尋ねで、当初の 2 割削減のときにも同じようなご意見をいただいたと思うが、我々としては皆さんにご議論いただいて作った基本計画があるので、あくまでも基本計画に定めた必要な機能はしっかり担保することは基本といううえで、その中で効率的に見直しができるもの、技術革新でいろいろな効果が反映できるものについては、行政としても鋭意努力をして見直していくとのスタンスを取っているので、まずは基本計画に定めた機能は担保するというところはこれからもしっかりとやっていきたいと考えている。

【会長】

物価高騰をしてもしなくてもスタンスとしては最低限のものは作りたいとの意思表示。もうこれ以上は削れない。練習室をせめて 3 つ、独立して使えるリハーサル室を小劇場としても使えたら良いとの話も随分した。唯一議論になったのは、エントランスとホワイエを共用でどうやって使っていくか、結果的には少し狭くなったとか、楽屋が使われないときに楽屋の有効活用で練習室に使えないかとの話も多分した。今回楽屋は小さいがそれなりの数は確保でき、そこをどう有効活用するかも踏まえ今後検討していくとの考え方で良いか。基本的な考え方は、今ので良いか。

【事務局(市民生活部)】

お話しいただいたとおり。

【委員】

根本的なところで、PFI になるとどうなってくるのかがよくわかっていない前提の質問だが、全体としては余剰地と新文化施設と近隣公園を一体として設計開発する考え方で良いか。

【事務局(企画政策部)】

13 ページをご覧いただきたいが、今回の見直しについては先ほどから議論されているように17%の面積を削減することについてはこの敷地全体の確保をしたいということがあり、この右の部分にやはり民間の収益施設を設けたい。地下部分の上も含め活用したいということで、やはり非常に厳しい財政状況の中で、最低限の基本計画を満たさないといけない、維持管理まで含めトータルで、作るだけでなく管理まで含めた形で考えないといけないのが1つと、もう1点、民間の収益施設と連携し、連動性でにぎわいを創出させたいとの2つの命題がある。そういった部分をしっかりと建てるためにもこのPFIの可能性調査を今しているが、今第一段階としてこの敷地をある程度確保したうえで、次の段階では事業者に参加してもらおう。一体的にすることで連動性と経費の削減を達成していきたいということで、市庁舎跡地、近隣公園、旧別館跡地、駐車場も含め民間の事業者提案していただきたいということで、これが9月までで、そこまでいけば今度は次のアドバイザー契約との道筋で今進めている状況で、まだ第一段階まで来たという状況。

【委員】

余剰地にも何らかの建物が建ち、それはそれなりの設計の中でデザインができ、一体的なデザインなり設計なりの建物が文化施設と関係していく中で、A案B案は敷地をどう使うかだが、今割と細かくこの階に何がとの議論になっているが、設計図で全く違う形になることもあり得る前提の中で、あくまで現時点ではA案B案それぞれの良いところ、これはやめたほうが良いということを中心に議論してほしいとの考えで良いか。場合によっては設計者によっては非常に大胆なものになっていく中で、最低限ここだけは確保するとの案としてお示しいただいているのに対して意見を述べるのが求められているということで良いか。

【事務局(企画政策部)】

あくまでモデルプランなのでこれがそのままこういうふうになるわけではなく、一応たたき台だが配置がどういうふうになるかは、また次の設計の段階になる。我々としては民間収益施設を今から公募サウンディング調査をしていく格好になるが、そのデザインについてはやはり一体性を持たせたいと思っているので、しっかりと提案をいただいたうえで、内装、中身はいろいろな業種等で変わるかもしれないが、やはり統一的な外観になるように求めたいと思っている。あくまでもモデルプランなので、詳細は文化振興課がしっかりとしていくと思うが、今日皆様からいただいた意見も十分参考にしながらしていく格好になると思う。

【委員】

これはないというようなことははっきりとここで申し上げたほうが良いし、関係者用駐車場がないと関係者が持ってくる楽器等搬入できないから絶対確保して欲しいとかを言うことは今求められているという理解で良いか。

【事務局(市民生活部)】

ご指摘いただいているとおりで、まさに先ほど議論もあったが、練習室3つを優先するのか中練習室を優先するのかとか、舞台と楽屋が違うフロアにあるのは有り得ないとか、そういったご意見をいただきたいとの趣旨になる。制度としてわかりにくいので、改めて説明させていただくと、今回の導入可能性調査の大きな目的は2点ある。1点目は先程来お話しているとおり、事業費の高騰なども受け、機能はあくまでも担保した中で、2割程度の面積の削減ができないか。一応設計会社が引いた図面で機能を担保した上でちゃんと詰め込んでいるが、その詰め込んだ中に何か不便がないか皆さんのご意見をいただきたい。もう1つの大きな目的が、新文化施設の隣の余剰地をこういう形で面積を出すことで、民間事業者の参入意欲をどれだけ引き出せるか。その2つの目的で今回2割を目標として削減プランを作った。今後の流れとしては、関係者、市民、議会の皆様のご意見をいただきながら、こういった要素はNGとかそういったところを少しずつ修正しながら、次の段階の民間事業者へのサウンディング、もしPFI方式でいくとなれば、そういった公募に出すための条件になっていくとご理解いただければと思う。

【委員】

それを前提に考えたときに、使い勝手について、大型施設を作ったときに最終的に設計段階で問題になるのは、意外と倉庫、収納部分がある程度潤沢にないと使いにくい。例えば事務室が狭くてもある程度事務のものが入れられる倉庫が必要となりやすいので、その辺りは思っている以上にきちんと経験のあるところからインタビューした方が良いと思う。もう1つは、余剰地の面積を割と広く取っていた方が民間の業者が参入しやすいと一瞬思うが、200平米ぐらいだとそんなにすごく変わるのかとの気もして、むしろこっち側に四角い建物、こっち側に違う建物があり別というよりは、一体的にその中で回遊性が生まれるような土地の使い方をするのが良いのではないか。民間施設からの人も自然に文化施設に入るようなことがにぎわいを創出してくる中で大事と思うので、一見非常にA案が効率も良くうまくできているが、もしかしたらB案がそういう人の回遊性を生むような余地がないかということも検討していただく余地があると思った。

【委員】

実際業者が決まり設計に入ってくると思うが、設計に入った後に案が出たものに我々が意見を言う場が設けられるか。ブリックホールができたときに、できあがってみたら非常に使い勝手の悪い部分があった。トイレの動線や入場のときに階段を上がって降りないといけないところが実際使う者からするとなぜこんなふうになったのだろうということが多々出てきたので、実際今ここで話していても想定できない部分もあるかもしれないので、具体的にこういうふうでどうかと示された段階で意見が言える場がぜひあって欲しいと思うがどうか。

【事務局(市民生活部)】

皆様からのご意見をいただくタイミングは、13 ページを見ていただくと導入可能性調査の矢印が令和 8 年度の途中までのびており 12 月までをめどにやろうと思っている。そのあとにアドバイザー業務という点線の矢印の中でご意見をいただきたいと思っている。具体的な設計の段階に入ると、そこで細かい修正とはならないので、アドバイザー業務の中で何度か意見交換をさせていただきながら、使い勝手の良いものを目指していきたいと考えている。

【事務局(企画政策部)】

通常のやり方と PPP/PFI のやり方の違いが非常にわかりづらく、皆様少し混乱されている部分があると思うので、違いについてご説明したい。通常のやり方は、今回お示ししているような図面をもとに、基本設計、詳細設計の実施設計とセットアップしながら、基本計画、基本設計、実施設計と順番に形を 1 つずつ決めながら進んでいく。PPP/PFI のやり方は、具体的に絵としては指定をせず、仕様をしっかりと固めず、要求を固めることになる。この部屋とこの部屋は同じフロアでないといけないとか、近くに関係者駐車場がないといけないとかを性能として言語化していく。それがアドバイザー業務の中で要求をしっかりと文章として作っていくというステップになる。それをもとに、令和 9 年度から令和 10 年度にかけて、事業者がその要求を満たすデザインや施設計画を、仮に複数社いるとすればそれぞれ提案してきて、その中で一番優れたものを選定していく形になるので、その提案が出る前の段階のこういった要求を盛り込んでいくかというアドバイザー業務の前半の部分が非常に肝になってくる。その辺りが通常のやり方と異なる部分とご理解をいただければと思う。

【会長】

今ご説明いただいて少しわかったが、我々が随分回数と年月をかけて作った基本構想並びに基本計画との整合性はどうか。

【事務局(企画政策部)】

もちろん基本構想、基本計画がベースにあり、それをより要求として具体的に書いたものが要求水準となるので、基本計画の精度を上げていく作業とご理解いただければ良いと思う。

【会長】

精度を上げてても面積は減った。面積は減っても精度を落とさず、そこに盛り込まれた新文化施設は何のためにするかはきっちり押さえたうえで、それをより具体的にするときどうかと検討され、それについては必要に応じてこちらにも話していただき意見交換もあると理解して良いか。

【事務局(企画政策部)】

おっしゃるとおり。

【会長】

先程話があった周辺施設の中でキーワードとして回遊性という言葉が出てきたが、今サウンディング型の調査をされていて、そのようなキーワードのもとに新たな文化施設のプランは、具体的に話しにくいかもしれないが、我々は接点がないので、とても大事なキーワード、地域のにぎわいに大事と思うが、その辺の感触で何かお話できることはあるか。

【事務局(企画政策部)】

事業者からいろいろな提案をいただく条件として、しっかりそこを要求の中に落としていくステップが大事になってくると思っている。面的な整備をする1つの重要なポイントで、にぎわいをどう作っていくかも重要な命題になっているので、施設間の回遊だけではなく、高低差があるのでそこをどう利用しやすい、利用者が文化ホールに行くのはもちろん、電車通りから国道に上がってくる部分、文化施設と隣の施設間の連携の部分の設えをどう共有していくとか、そういった部分は非常に民間事業者からの提案の工夫を凝らしていただく部分と思っているので、提案の審査をする過程でその辺りはしっかり見ていくことになると思う。

【会長】

財政が厳しい長崎市なので民間事業者もある程度覚悟を持って臨まないといけないとは思いますが、大事な点なので、そのためにこうして我々の計画が3年ぐらい遅れているので、再度そこは大事にさせていただけたらと思う。

【委員】

私が勝手に想像していたかもしれないが、これで見ると建物が2つある感じで、自分の中では芸術劇場や博多座やキャナルのような企業との中でそういう劇場があり一体化になり果たしているようなイメージのものをここに作ると思っていた。1つの建物の中にこういうものがある考え方ではなく2つ建つのか教えていただきたい。

【事務局(企画政策部)】

今の時点では、1つの建物にすべての機能が入るケースもあれば、別のものが建つケースもあれば、そこはまさに事業者の提案の工夫の余地だと思っている。ただ今までいろいろ民間事業者からご意見を伺う中では、ホールの大空間の真上の部分に新しく床を作るのは非常にコスト面から現実的ではないし、振動や音の部分もクリアするためにはコストがかかるというお話も多くいただいているので、例えば出島メッセのように、コンベンション施設とヒルトンのホテルが建物自体がくっついているようで実は2つの建物が連続している設えをし

ているケースもあれば、もう少しくつついているケースもあれば完全に1度縁が切れているケースもあるので、そういったところは使い勝手とコストの部分を含めいろいろな提案のあり方があると思っている。

【委員】

余剰地に民間の利益を生み出すような方に入っていただくのは具体的にどの辺を想像しつつ考えれば良いか。大体どの辺を想定されているのかあったら教えていただきたい。

【事務局(企画政策部)】

昨年度サウンディングする中では国道沿いのカフェ、飲食とか、例えば老朽化が進み自社ビルが必要な施設が立地するとか、いろいろなご意見はいただいたが、具体的に今の時点で必ず飲食とかホテルとか何というところまではまだ至っていない。今業務を進めている導入可能性調査の中で、今回余剰地の形も少し見えてきたので、そういったところを含めてどういったものが一番文化施設等も連携しやすいもので民間事業者の提案が出やすいのかということをもう少し探っていくのが今後のステップになる。

【委員】

若い世代を引き付けるようなものも良い。幼稚園があっても良い。

【会長】

確かに子どもは保護者もついてくる。

【委員】

今の意見に賛同するところで、長崎市のいろいろな問題の中の少子化があると思うので、A案B案ともキッズスペースは入っているが、やはり子育て世代が来やすいことが両方の施設でもしかしたら重ねて使うようなものになるのかもしれないが必要と思うし、20年前にできた長崎県美術館はやはりそこまでの配慮がない。授乳室はあるが、奥にあり子育て中の方が自然に入ってくるような施設にはなれないので、この20年間の社会情勢の変化の中でいえば、やはり子どもとか子育て支援になるスペース、この文化施設だからこそ子どもたちが経験できることが経験できるスペースがその余剰地の施設とも一体的に考えられたら良いと思った。

【会長】

テーマとしてすごく大事と思うが、それについて何かコメントがあるか。

【事務局(企画政策部)】

長崎市重点プロジェクトの中でも少子化対策に力を入れているので、今のご意見も参考にし

ながら進めていきたい。

【委員】

余剰地に関してはこちらで要望をというわけではないと思うが、1つ気になるのは、にぎわいを作るとなったときに、長崎市はご飯を食べる施設が閉まるのがとても早く、今ブリックホールで何かあって終わってもそのあとココウォークで食べることもできなければ、駅に行き過ぎてぎりぎり下が開いているぐらいで、周りの居酒屋にとってはとても良い状況だが、ご飯を食べられないとなれば、子育て世代は、そのあとどうするとなりまちに降りられれば良いが浜町も閉まるのが早いとなると余剰地の施設でホールで催事が例えば21時までであるところからでもご飯が食べられるとか、そういうところにも配慮いただくと、子育て世代はもちろん、それを楽しみに来られるような場になったら良いと思うので、そういう生活にも目を向けていただければ嬉しい。

【委員】

いろいろなところに出かけておいしいものを食べたり良いものを見たり聞いたりするのが大好きだが、例えば新しい長崎駅ができたときに立派なのはできたが、血の通う、以前の長崎駅にあった山の上から出てきて採れたての野菜とか持ってきたおばあちゃんがずっと座っていたみたいなのも同時に大好き。文化、歌舞、音曲を好む、そういうものに引きつけられる人間は、決して縦横の真四角な建物やコンクリートの建物だけでなく、そこにモダンで今の時代に合ったものではあるが曲線があったりやわらかい素材のものがあったり、そういったところができたら長崎の中でとても魅力のある、みんなが自然に集まってきたと思うような、また近くに来たらちょっと寄っていこうという気になるようなそこに文化とか音楽とか演劇とか表現したい人が一生懸命発信してという熱い空気が生まれるようなところを今想像している。

【会長】

まさにそう。この会議でもいろいろ話をして、そういうのを目指している。

【委員】

ここを説明するうえで今平面上での説明でなかなかピンとこなかったりイメージがわからなかったりするのでもし可能であればVRとかそういったもので説明できればすごく臨場感や中に入った感じ、周りの感じがわかると思うが、技術的にどうかと思い、よかったらそういうものがあると、皆さんが具体的に仮想現実に見ていけるということで建てる前にしてもらったら失敗が少なくなる感じがする。

【会長】

イメージしやすくなる。随分前にはこの会議で白い模型をみんなで見ることがあるが、やは

り目で立体的に見るとイメージがしやすいこともあるので、多分それほどこかのタイミングに必要になってくると思う。

【委員】

しばらく前にお話があったと思うが、練習室の問題で、この建物は音楽とか演劇とかをする人たちが発表するための活動をする場所、発表にこぎつけるための場所をとということで小練習室の要望があったと思うが、時間がかかるから、長崎大学や活水大学の練習室や教室をお借りできないかとの話を多分したと思うが、こちらの進捗はいかがか。

【会長】

この前話題になり、ホールの機能は観賞・発表・創造の中の創造事象的な活動はどうかということで、その前から懸案事項で結構大きな問題だが、少し途中経過を話されるか。

【事務局(市民生活部)】

先日宿題をいただき、ご提案のあった長崎大学も音楽室がいくつかあるというところで実際に拝見させていただいている。具体的にそこが活用できるのか、練習室として開放ができるのかも今ご相談をさせていただいている状況なので、何とか実現できるように頑張りたいと思っている。

【会長】

長崎大学に限らず活水大学あるいは民間施設も今後引き続きいろいろご検討いただき、とにかく足りてないので、その都度話題にしていただき、ご報告いただくことで良いか。他にいかがか。特にないようなのでまとめを。A案かB案かではなく、A案に盛り込まれた要素を大事にしていただく。それからサウンディング調査は今後も続いていくと思うが、1つ良かったのは、具体的にデッドライン、いつまでにと明確にされたのは素晴らしいと思うので、ぜひそれに向かって進めていただきたい。その中で、もう随分時間が経っているので、少しでも早くできるような工夫を通常3年掛けることが2年でできたりもできなくはないわけで工夫でぜひ前に進めていただければと思う。引き続きよろしくお願ひしたい。